

地域コミュニティ



関係人口

レポート

マッチングの可能性の模索

むらやま若者みらい創造モデル事業 報告書

むらやま若者みらい創造モデル事業

人口減少に伴い、住民同士の支え合いなど、これまで地域コミュニティが果たしてきた機能の低下が懸念されています。

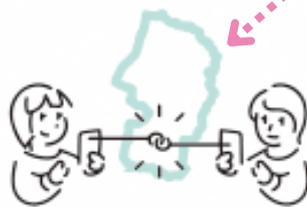


「地域コミュニティが持続的に機能していくためにはどうすれば良いだろうか」
そう考えて、**地域の外に住みながらも、地域に興味をもち、関わりたいと思っている関係人口**と呼ばれる方に着目しました。



定住人口

地域に住んでいる方



関係人口

地域に興味関心を持ち
関わりたいと思っている方



交流人口

旅行やイベントの訪問者

山形県村山総合支庁では、「関係人口が地域コミュニティへ参画することで、持続可能な地域コミュニティの形成に寄与することは出来ないか？」と考え、今年度、村山管内の市町への支援としてモデル事業を実施しました。

むらやま若者みらい創造モデル事業 事業内容

① 地域コミュニティ現状調査

地域コミュニティが抱える課題や関係人口に対する意識を把握することを目的に「地域コミュニティ現状調査」を実施しました。



② 地域コミュニティ参画に係る意識調査

関係人口による意識及び地域コミュニティ機能の維持・協働に係る可能性を把握することを目的に「地域コミュニティ参画に係る意識調査」を実施しました。



③ マッチングの可能性を探る交流イベント

地域コミュニティと関係人口をオンラインでつなぎ、「地域コミュニティ参画に係る意識調査」だけでは拾いきれない関係人口の細かな意見を聴取するため、地域コミュニティ活動に興味がある首都圏の若者等による交流会を開催しました。



※本調査における「関係人口」とは、「主体的・継続的に地域コミュニティ活動に参画する者」を指します。



「地域コミュニティ」と「関係人口」の間には
様々なギャップがある。
両者がつながるために
ギャップを埋めるコーディネートを行うことで
地域コミュニティの地域活動に新たな進展がある。



①・②の調査から地域コミュニティと関係人口は、お互いに対して「興味関心はあるが、よくわからない」ことがあり、様々なギャップがあることがわかりました。
両者をマッチングするには、互いのギャップを埋めてつないでいく人が必要です。
本レポートでは、ギャップを埋める役割を担う人を『コーディネーター』と呼び、持続可能な地域コミュニティを作っていく方法の1つとして、地域コミュニティと関係人口をつなぐコーディネートのポイントをお伝えします。

地域コミュニティ × 関係人口 レポート

本レポートは、③ 交流イベントにおける
コーディネーターの田中が解説します。



コーディネーター
田中麻衣子
株式会社キャリアクリエイト
ヤマガタ未来ラボ編集長

目次

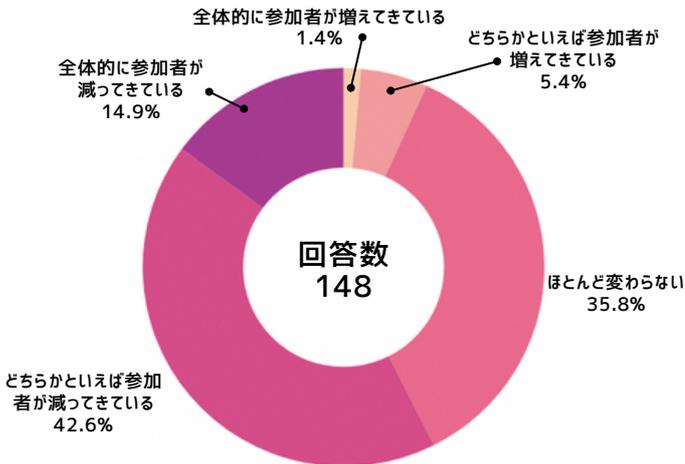
・ 地域コミュニティの現状	3
・ 関係人口とは	4
・ 県外から山形の地域に関わる関係人口の姿	5
・ 関係人口の活動は、UIターンにもつながる可能性	6
・ 地域コミュニティ・関係人口それぞれの不安・懸念	7
・ ギャップを埋める「コーディネーター」	8
・ 関係人口が地域コミュニティに参画するには①活動内容・手法	9
・ 関係人口が地域コミュニティに参画するには②ギャップを埋めるためのコミュニケーション	10
・ 関係人口が地域コミュニティに参画するには③関わり方のステップ	11
・ まとめ「地域コミュニティと関係人口のマッチングのポイント」	12

地域コミュニティの現状

本事業では、村山総合支庁管内の5市町（山形市・上市市・天童市・山辺町・中山町）の町内会・自治会等に地域コミュニティ活動についてアンケートを実施しました。その結果の一部をご紹介します。

地域の現状①

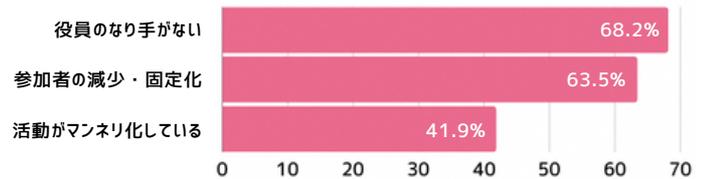
約6割の地域は地域活動への参加者が減ってきている。



「①地域コミュニティ現状調査報告書」
「地域活動への参加状況」について

地域の現状②

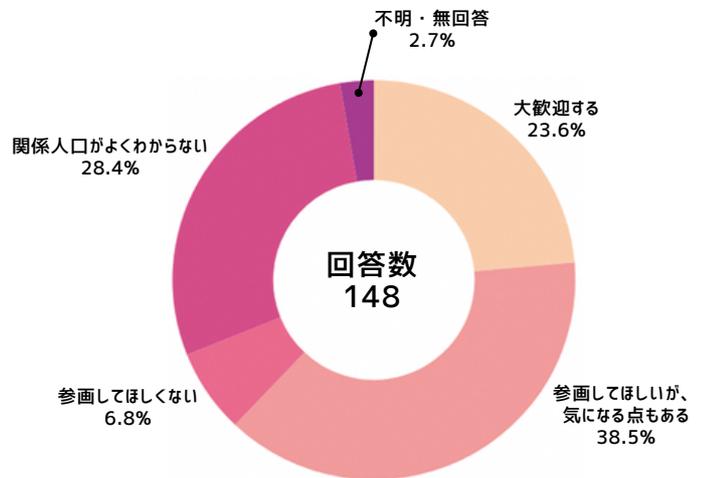
人口減少や高齢化の進展により、活動する人・参加する人の減少・固定化、活動内容のマンネリ化を困りごとだと感じている人が多い。



「①地域コミュニティ現状調査報告書」
地域活動を行う上での困りごとについて（上位3つの回答）

地域の現状③

地域に地域外の人に関わることに肯定的な人の割合は半数を超えている。



「①地域コミュニティ現状調査報告書」
関係人口が地域コミュニティに参加することについて

多くの地域が、高齢化による参加者の減少や固定化などにより地域コミュニティの運営が難しい状況にあります。人口減少により10年後、20年後の将来像が見えないといった意見もあり今後の地域コミュニティの活動をどのようにしていけばよいのかを模索したり、不安を感じています。

地域が持続的に機能していくためには、地域が個々に考えて活動するのは限界があり「他町内での活動や取組を知りたい」という声もあります。

関係人口が地域コミュニティの活動に参加することを「大歓迎する」、「参加してほしいが、気になる点もある」と答えた人の割合は6割を超えていますが、「関係人口とは何かわからない」「歓迎するが住民との相互理解が図れるか」等の不安も抱えています。



コーディネーター
田中麻衣子

① 地域コミュニティ現状調査報告書の詳細はこちら→



関係人口とは

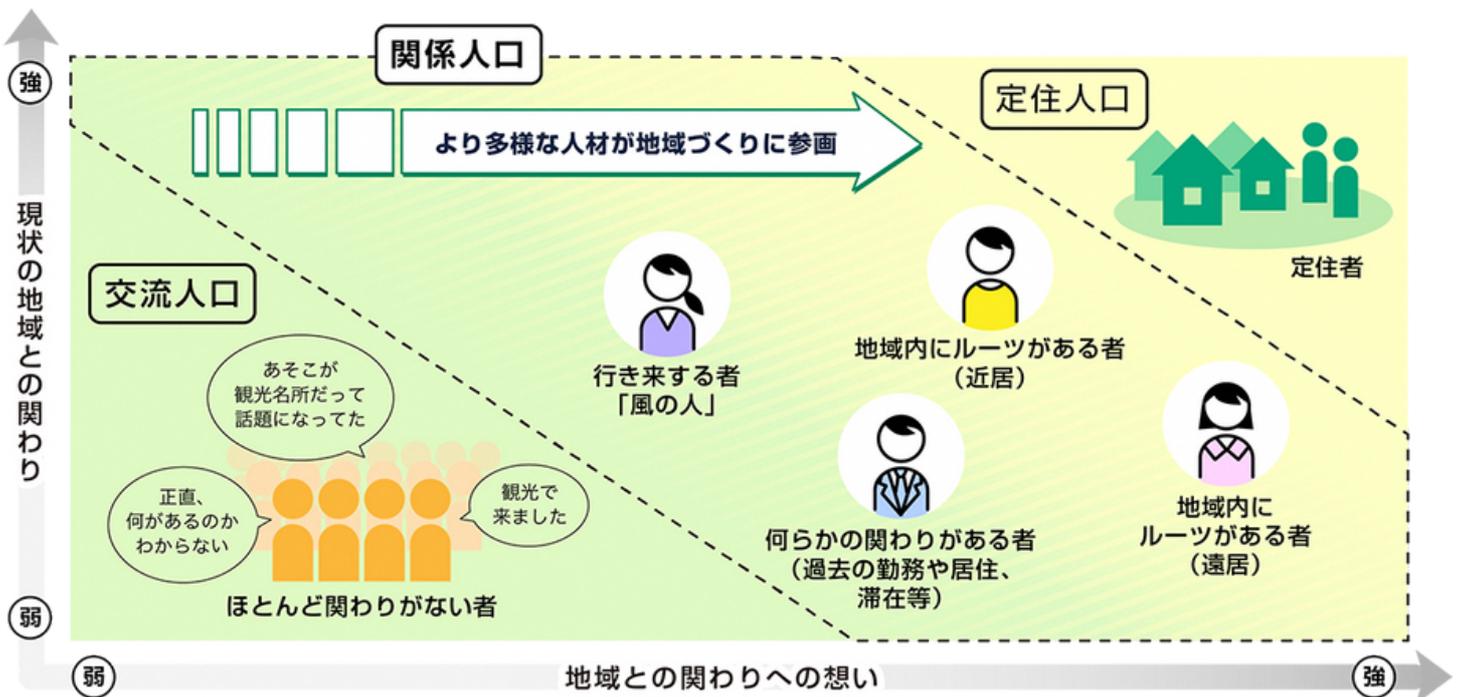
地域の声

約3人に1人が「関係人口がよくわからない」

「[1](#) 地域コミュニティ現状調査報告書」

関係人口とは

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す言葉



出典：総務省 関係人口ポータルサイト



医療福祉

事例：広島県東広島市「介護施設」
学生が介護施設でバイトをする代わりに住めるシェアハウス(複合施設)運営



地域文化

事例：青森県弘前市「ねぶたまつり」
主に20~40代の県外在住者を対象として、運行団体と共に準備や当日運行を手伝い交流



県外に住む若者などが地域活動に参加している事例が、山形県内でもあります。

全国をはじめ、山形県内でも、関係人口が地域で活動する事例はたくさんあります。



情報

事例：山形県新庄市「地域の情報発信」
カフェ・まちづくりイベント等を行う団体で、地元出身の県外在住大学生が記事を書く広報活動を行う(オンラインが中心)。



農業

事例：山形県村山市「野菜の収穫」
スイカ、キャベツなどの農作物を作る農家の収穫を関東在住の若者が手伝う(報酬あり)。



地域コミュニティには、関係人口についてよくわからないと思っている方も多くいます。まずは、関係人口の考え方や関係人口への関わり方についての理解促進が必要と考えられます。



コーディネーター
田中麻衣子

県外から山形の地域に関わる関係人口の姿

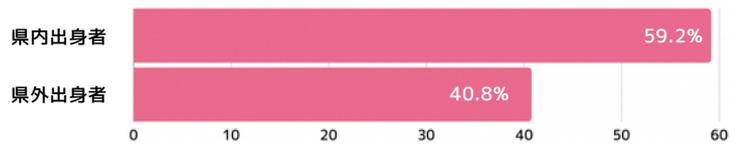
地域の声

自分の子どもですら県外に出ているのに関係人口に来てもらえるのか疑問

「①地域コミュニティ現状調査報告書」

山形県の出身者は
「自分のことで
地域を手伝いたい」
と考えている割合が高い

「自分のことで地域を手伝いたい」と回答した人
(364人中71人)の出身別の割合



「②地域コミュニティ参画に係る意識調査報告書」
「山形の地域と関わることの意識」について

本事業では、地域コミュニティと関係人口のマッチングに向けた交流イベントを実施。
山形市内の町内会や地域コミュニティのお悩みについて、交流イベント参加者が解決に向けてアイデアを出しました。

交流イベント
参加者の声

交流イベントに参加したことで、
「県外から山形をもっと手伝いたい」
気持ちになった人…92%



地域の課題解決になる
ことがしたい
(30代男性・
山形市出身)



山形に帰りたい
家族がいるから難しいが…
だからこそ、
地域のためになることがしたい
(40代女性・上山市出身)



- ・ 地域おこしではないですけど、山形を広めることができればと思います
- ・ 地元の課題は解決していきたい
- ・ 山形をもっと知りたい
- ・ 県外から山形に関わっている方が意外と多かったので、私も少しでも何かお役に立てればと思いました
- ・ 山形のいい所をもっとアピールしたい



県外から山形の地域に関わりたい人は、確かに存在します。

特に、山形県出身者は、山形にゆかりがない人と比べて、山形県を手伝いたい気持ちを持っている人が多いです。



コーディネーター
田中麻衣子

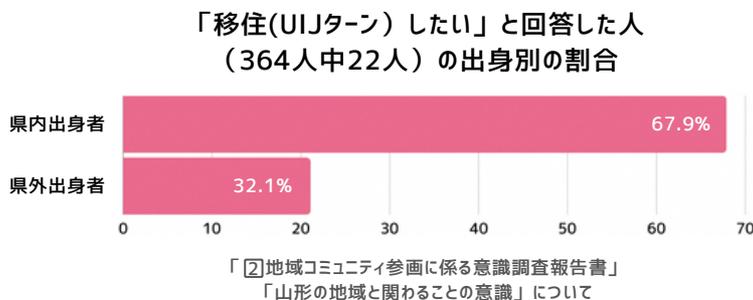
関係人口の活動はUターンにもつながる可能性

地域の声

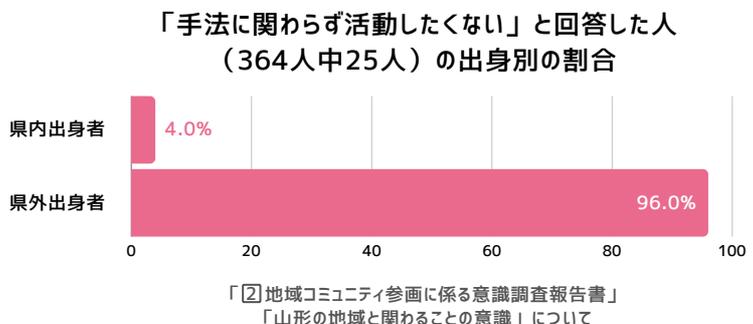
関係人口が地域で活動するというような一過性の対応では効果はあまりないため、**居住者の増加**が望ましい

「①地域コミュニティ現状調査報告書」

“ 移住（Uターン）の意向が高い
山形県出身者 ”



“ 移住（Uターン）したい人は
地域での活動意欲が高い ”



合同会社 lururu
黒川さん

県外から気軽に関われる
山形の活動に参加して
山形でのやりたいことが
見つかったから
山形に帰ってきた

大学卒業後、中部地方に就職。

10年くらいしたら山形に帰ろうかなと思っていました。SNSでたまたま山形県に関わる就業体験プログラムを見つけて、やってみたく応募。休みの日にはオンラインで、たまに山形に帰省した時には現地での活動を行いました。

活動していく中で「山形でやりたいこと」が見つかり、自分の予想を超えて、わずか1年で地元山形に戻ってきて、就業体験していた会社にUターン転職しました。

県外在住者が、関係人口として地域に関わる活動をするには、山形県への移住に興味関心はありながらも「きっかけがない」「明確な戻る理由がない」人が、**地域の人と関わりを持つことで、自分なりの移住する目的を見出して**いたり、山形県への移住について本格的に検討していない人が、**山形県への移住に興味を持つきっかけ**になります。

「関係人口」と「移住(Uターン)する人」は、地続きでつながっており、中でも、特に山形県出身者がその傾向にあります。

関係人口が地域コミュニティと初めはゆるくつながり、次第に関係性を深めていくことで移住に結び付くことは十分に想定されます。**地域コミュニティと関係人口のマッチングは、移住への「数歩前の状態」と捉えることもできそうですね。将来の移住に結び付くことも視野に入れて、地域コミュニティと関係人口のつながりを創出していくことが重要です。**



コーディネーター
田中麻衣子

地域コミュニティ・関係人口 それぞれの不安・懸念

地域の声

関係人口が地域活動に参画することについてどう思うか

1位 参画してほしいが気になる点もある

2位 関係人口がよくわからない

3位 大歓迎する

4位 参画してほしくない

5位 不明・無回答

主な意見

- ・ 関係人口の考えていることが理解できるか
- ・ 関係人口が地域内の人と上手くやっけていけるか
- ・ 地域に対して関係人口が意見を押し付けることをしないか
- ・ 地域内の人と関係人口の相互理解ができるか

「①地域コミュニティ現状調査報告書」
関係人口が地域コミュニティに参画することについて

関係人口の声

地域で活動する上での不安・懸念

1位 時間が確保できるか

2位 何かやりたいけど、何が望まれているかわからない

3位 自分に何ができるかわからない

4位 本業と両立できるか

5位 地域の人との人間関係をうまく構築できるか

「②地域コミュニティ参画に係る意識調査報告書」
活動する上での不安・心配

交流イベント参加者の声

- ・ 世代が違くと全然受け入れられない感じがする

「③交流イベント実施報告書」

関係人口が地域活動に参画する上での心配ごと

1位 地域内の人と上手くやっけていけるか心配

2位 相手が考えていることを理解できるか

3位 世代間ギャップが埋まるかどうか

4位 自分たちの地域のことは自分たちでやりたい

5位 その他

「①地域コミュニティ現状調査報告書」
関係人口が地域で活動する際の心配ごとなどについて

県外在住者は、地域に関わって活動することに
関心はありつつも、

- ・ 具体的に何をすれば良いのか
- ・ 地域は何を求めているのか
- ・ それに対して自分は何ができるか

というような不安・懸念を持っているため、
地域側から

「こんなことをしてほしい」「一緒にやろう」という
具体的な活動の提示があった方が
地域の活動に参画しやすいと思われます。

半数を超える地域コミュニティの代表者が、関係人口が地域の活動に参画することについて概ね
肯定的ですが、同時に、関係人口とのコミュニケーションについて不安や懸念を感じています。

関係人口も、地域での活動に不安・懸念があります。

意識や考え方などに様々なギャップがある両者をマッチングするには、それぞれの不安や
懸念を解消し、ギャップを埋める工夫をしていく必要があります。



コーディネーター
田中麻衣子

ギャップを埋める『コーディネーター』

地域の声

地区と外部をつなぐ人材はいずれ必要になると思う

「①地域コミュニティ現状調査報告書」

“ コーディネーターがいると、ギャップが埋まり、
地域コミュニティと関係人口がつながりやすい ”

コーディネーターとは

地域全体を良くするための視点を持ちながら人材と地域や事業者のマッチングやサポートなどの活動を行う伴走支援者のこと。地域に密着しながら、住民や事業者のやりたいこと・困ったことを見つけ出してプロジェクト化します。

(コーディネーターになり得る人)

- ・自治体職員
- ・UI/ターンした人
- ・地域おこし協力隊
- ・まちづくり会社・人材会社
など



(どんなことを行うか)

- ・関係人口が活動する参加型プログラム
(インターン、ボランティア、アルバイト等)
やイベントなどの企画運営
- ・情報発信の設計・サポート など

【例：インターンシッププログラムを実施する場合のコーディネーターの動き】

(準備)

- ・地域側と丁寧に対話し課題や
やりたいことをヒアリング
- ・プログラム等の作成
- ・関係人口側への広報・告知

(実施)

- ・応募者の面談
- ・事前説明

(フォロー)

- ・プログラム期間中の面談
- ・振り返り

コーディネーターは、「仲人（結婚のお見合いを仕切り、縁を取り持ったり、両家の連絡役として必要なやり取りをする人）」のような存在。

内外を問わず様々な人材や組織と関係を深めながら連携・マッチングさせ、プロジェクトに対して継続的に関わっていく存在です。

地域で伴走支援を行う様々な立場の人が、『コーディネーター』になり得ます。

コーディネーター
田中麻衣子





関係人口が地域コミュニティに参画するには

① 活動内容・手法

地域コミュニティ・関係人口それぞれが希望する活動内容・手法について、調査結果を比較してみました。

地域の声

関係人口に参画してほしい地域活動

- 1位 お祭り・盆踊り
- 2位 高齢者や障がい者の見守り活動
- 3位 防災活動
- 3位（同率） 地域清掃活動
- 5位 高齢者ふれあいサロン・給食

「①地域コミュニティ現状調査報告書」
関係人口に参画してほしい地域活動について

地域活動が持続・活発化と思う 関係人口の参画方法

1位 地域活動に参加者として参加

- 2位 活動現場の人手、労働力
- 3位 情報提供、アドバイス・アイデア出し、コンサルティング
- 4位 広報・情報発信
- 5位 交流・話し相手

「①地域コミュニティ現状調査報告書」
地域活動の持続・活発化に寄与する地域外の方の活動内容



② 地域コミュニティ参画に係る意識調査報告書
の詳細はこちら→

関係人口の声

参画したい地域活動

- 1位 地域の情報発信・PR
- 2位 地域のコミュニティ活動（お祭り、美化活動など）
- 3位 就業体験・インターン
（果樹・野菜などの収穫、除雪ボランティア等を含む）
- 4位 副業兼業でスキル・知識等を還元
- 5位 特に活動したいことはない

「②地域コミュニティ参画に係る意識調査報告書」
活動内容について

希望する活動手法

1位 現地での活動

- 2位 移動しなくてもオンラインで完結する
- 3位 家族・友人と一緒に活動できる
- 4位 帰省したついでに出来る
- 5位 手法に関わらず活動したくない

「②地域コミュニティ参画に係る意識調査報告書」
活動手法について

活動する上で大事なこと

1位 興味関心のあることに携われる

- 2位 「ありがとう」「助かった」と思ってもらえる・言ってもらえる
- 3位 スキルがなくてもできる
- 4位 自分の強みが活かせる
- 5位 交通費補助・賃金発生など「お金」がもらえる

「②地域コミュニティ参画に係る意識調査報告書」
活動する上で大事なこと

- ・ 地域のお祭りに関係人口が現地で参加したり、手伝ったりすること
- ・ 関係人口が地域の情報発信などの広報活動やアイデア出し、情報提供などをオンラインで行うこと

などは、お互いのニーズを満たす活動内容となりそうです。関係人口が活動する上で大事に思っていることはダントツで「興味関心のあることに携われる」ことだったので、**関係人口が興味を持ちそうな企画や言葉**にすることが大切です。



コーディネーター
田中麻衣子



関係人口が地域コミュニティに参画するには ②ギャップを埋めるためのコミュニケーション

お互いがどのような心持ちで向き合いコミュニケーションを図ると良いのが、交流イベントからわかったことをお伝えします。

地域コミュニティ

話すことでイメージが出来る

オンラインでつながって実際に話をしたことで一気にイメージが湧いたようです。

“ どんどん意見がほしい！ ”

自分達でも
やってみようと思った。

山形市やよい町内会
会長 門脇 徹 氏



“ もらったアイデアを精査
自分たちに合わせた形でやりたい ”

イベント参加者から出た意見を全て受け入れるのではなく、アイデアを自分達に合わせた形にしたり取捨選択をする姿勢がイベントゲストのお2人に共通していました。

“ SNSアカウントの必要性を
認識したので、作りたい。 ”

西山形の酒を造る会
副会長 柏倉昭裕 氏 (明源寺住職)



“ 人間関係を作りながら
徐々に、出来る範囲の活動でOK ”

相手を知ることからスタートして、相手を理解しながら、人間関係を作りながら、やれることから進めていくとやりやすい。

関係人口

“ 人とのつながりが出来るのが楽しさ・
山形に関わる意欲につながる ”

交流 イベント



“ (参加者の声)
人とのつながりが得られて
山形愛が深まった。
山形にも何か役に立つ
ことをしたい ”

「人とつながることの楽しさ」がイベントに再度参加してみようと思う動機になり、また「自信」へと、さらには個人が山形に関わる「勇気・モチベーション」へとつながります。

オンライン アイデア 出し

“ 「自分はどうしたいか」主体性を持ちつつ
地域と良い関係を持つのが大切 ”



“ (参加者の声)
・地域外から山形に関わる
活動をする上で、自分にと
って大事・大切なと思うこと
は、お互いに尊重すること ”

地域での 活動

「県外から地域に関わるコツ」

FURUSATOの未来 伊藤 一之氏

1. 「自分はどうしたいか」という主体性を持つことが大切
2. 自分のやりたいことの結果を求めるのが先ではなく、まずは、地域側と関係性をつくることを大切にすることが好循環を生む



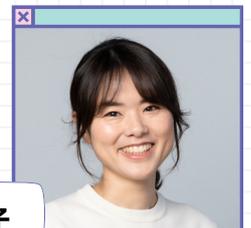
③ 交流イベント実施報告書の詳細はこちら→

イベントで講演いただいた、FURUSATOの未来 伊藤さんからは「お互いをリスペクトする「関係」を構築することで、良いアイデアが生まれる「思考」を担保し、新しい挑戦に向かう「行動」に移していける」というお話をいただきました。

最初から成果を求めずに、良い関係性作りから始めていくと良さそうです。

地域コミュニティと関係人口の両者をよく知るコーディネーターの力は大きいですね。

コーディネーター
田中麻衣子





関係人口が地域コミュニティに参画するには

③ 関わり方のステップ

本事業で実施した調査や交流イベントで得た知見をもとに、地域コミュニティと関係人口がお互いに負荷をかけ過ぎずに、少しずつつながっていける関わり方のステップを考えてみました。

ぜひ参考にしてみてください。

県外在住のまま山形と関わる活動に参加してきた交流イベント参加者の声

東京に出てきて良かったのは、“山形にも面白いところってあるじゃん”と思えたこと。今年山形にUターンします。

関係人口側

- ・ 山形の地域の新しい人とのつながり（山形県出身者の場合、家族・旧友・ご近所などの地縁血縁以外の人とのつながり）ができることで、地域に対する新しい発見が生まれやすくなる。
- ・ 発見が地域の捉え方・今後のキャリアの考え方に影響を与え、山形への移住(UJターン)の可能性が出てくる。

・ 横のつながりが出来る
・ 自分だけじゃない

・ 知る
・ イメージできる
・ 問合せや申込みができる

・ 移動がなく出来る活動を求めている

・ やってみたい！



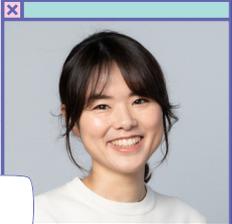
地域側

- ・ 関係人口のイメージが湧くようになる
- ・ 地域の外の人向けに情報を編集し、まとめて掲載しているポータルサイト(例・ヤマガタ未来ラボ等)で知ってもらうきっかけを作る。
- ・ 情報発信活動を手伝ってくれる関係人口を募集する
- ・ HPやSNSなど自分達の発信メディアを持つ

“活動してくれる関係人口に対して「感謝の気持ち」が何かしらあると良い”

地域コミュニティのニーズ・実情に応じて進める。

地域コミュニティと関係人口が徐々に関係性を作りながら、考え方やコミュニケーション方法などのギャップを埋める工夫をしていくことで、地域コミュニティに参画する関係人口は徐々に増えていきます。
その人たちは、移住(UJターン)予備軍です。



コーディネーター
田中麻衣子

まとめ「地域コミュニティと 関係人口のマッチングのポイント」

1

「関係人口」と「移住(U/Iターン)する人」は、地続きでつながっていると考えれば、地域コミュニティと関係人口のマッチングは移住の「数歩前の状態」と捉えることができ、将来の移住に結び付く可能性がある

2

お互いに抱えている「イメージが出来ないからピンと来ない」となるのを打開するなら、お互いに「情報発信」や「直接話すこと」を大切にすると良い

3

お互いをリスペクトする関係性づくりや無理のない範囲での関わりを徐々に進めていき、両者をよく知るコーディネーターを介して地域コミュニティと関係人口のギャップを埋める工夫をする

地域コミュニティの活動に関係人口が参画することで、

- ・ 少しずつ地域コミュニティの悩み・困りごとなどが解消・軽減されていく
- ・ 新しいアイデアや価値が生まれる
- ・ 関係人口が増える
- ・ 移住(U/Iターン)する人が増える

そんな好循環が生み出せるようにしたいですね。



コーディネーター
田中麻衣子

株式会社キャリアクリエイト ヤマガタ未来ラボ編集長
山辺町出身・東京都在住・山形市本社企業の社員として働く、山形県の関係人口の1人

制作

- ・ 株式会社 山形アドビューロ
- ・ 株式会社 キャリアクリエイト

本事業にご協力いただいたみなさま

- ・ 山形市やよい町内会 門脇さん
- ・ 西山形の酒を造る会 柏倉さん
- ・ ピアノラウンジゆき
- ・ FURUSATOの未来 伊藤一之さん

令和5年度 むらやま若者みらい創造モデル事業

「地域コミュニティ × 関係人口 レポート」

山形県村山総合支庁総務企画部総務課連携支援室

〒990-2492 山形市鉄砲町二丁目19-68
TEL: 023-621-8354 FAX: 023-621-8363